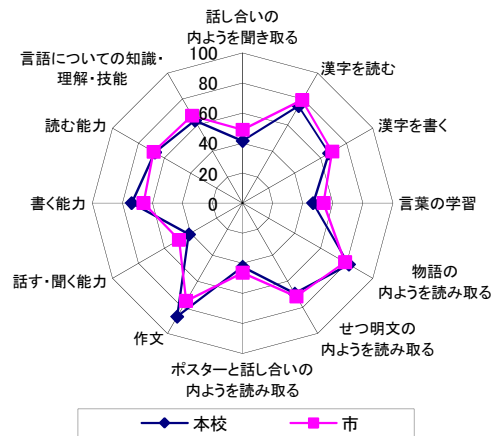


宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	41.4	48.8
	漢字を読む	74.6	79.3
	漢字を書く	66.4	68.8
	言葉の学習	47.0	53.8
	物語の内ようを読み取る	81.6	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	69.4	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	42.2	46.3
	作文	87.1	75.1
観点別	話す・聞く能力	41.4	48.8
	書く能力	73.8	65.9
	読む能力	67.4	68.4
	言語についての知識・理解・技能	63.5	67.2



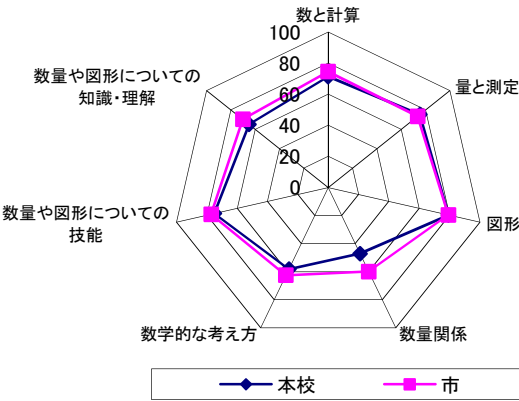
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	平均正答率は市の平均より下回っていた。「話の中心に気を付けながら聞く」ことは宇都宮市の正答率69%に対して本校は59%、「互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うこと」については宇都宮市の平均20%に対して本校は17%とかなり下回り聞き取ることが不十分であった。	話し手の考えを聞き取るため、朝会での校長先生の話や担任の話をメモをとりながら聞き取ったり、話し合いの中で相手の意見の中心を聞き取ったりする機会を増やしていきたい。また、会話科などで「伝言ゲーム」「心があったか友達紹介」「お宝さがし隊」などの楽しい活動を通して相手の話に耳を傾けることの大切さも合わせて指導していきたい。
漢字	漢字を「読む・書く」どちらも市の正答率を5%以上も下回る結果となっている。前学年で学習した漢字の定着が不十分であるといえる。	漢字練習に漫然と取り組ませるのでなく、文章の中で使うことができるような課題を工夫する必要がある。また、新しい漢字を学習する際には、書き順や成り立ち、熟語・使い方などと関連させて児童が興味関心を持って学習できる工夫をし意欲的に取り組ませていきたい。漢字学習では、同じ部首の漢字を集めたり、同音異義語を見つけたりする等できるだけ多くの熟語に触れる機会を増やしていきたい。
言葉の学習	修飾語については、市の平均と正答率はほぼ同じ結果であった。しかし「ことわざの使い方」は市の正答率が45%に対して35%、「漢字辞典の使い方」については市の正答率51%に対し33%と大幅に下回る結果となった。	漢字辞典・国語辞典など身近においてすぐに引けるような環境づくりに努めていきたい。漢字の成り立ちや意味についても興味をもって学習できるよう「言葉の学習」の小単元の活用を図っていく必要がある。
物語の内ようを読み取る	「物語りの内容を読み取る」は、市の平均をやや上回っていた。特に「登場人物の気持ちをを読み取ること」については2問とも市の平均を上回り、「場面の様子と登場人物の気持ちの変化を読み取る」問題も79%と市の平均を上回る結果となった。	主人公や登場人物の気持ちが表れている記述をみつけたり、物語の背景や流れと関連させて気持ちを想像して書かせる活動をさらに重視していきたい。また人物の気持ちをを読み取ることに抵抗がある児童には友達の発表を参考にしながら自分なりに考えを書くなどの体験をさせていきたい。また読書の習慣は個人差が大きいので朝の読書の時間を有効に活用していきたい。
せつ明文の内ようを読み取る	細かい点に注意して文章を読み取ったり、目的や必要に応じて文書の内容を読み取ることは市の平均をやや上回っていた。しかし、「文と文のつながりに注意して文章を読む」や「目的に応じて細かい点に注意して文章を読み取る」問題では市の平均を5%以上下回っていた。	大切な文章や言葉(キーワード)に着目して段落ごとの要点をまとめたり、小見出しを付けることで段落と段落の関係をつかんだりする学習にじっくり取り組ませていきたい。読み慣れない文章に抵抗を示す児童も多いと思われるので、音読の習慣化をさらに図っていきたい。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	資料を目的に応じて読み、内容をとらえる問題は市の平均を5%上回っていたが、「読み取ったことを適切な言葉を使って文を書き直すこと」は、市の平均を14%も下回っている。	内容の読み取りについてはほぼ平均だったが、様々な文章を書き換える機会はなかなかないので意識的にこのような問題に取り組ませていきたい。
作文	作文では、市の平均正答率を大きく上回る結果となっている。「指定された長さで文章を書く」ことについては、市の正答率66%に対して79%、「2段落構成で文章を書くこと」では、市の正答率を20%も上回った。また、「自分の意見とその理由を区別して書くこと」は96%と20%も市の平均を上回る結果となった。	作文帳や短作文などで3段落構成で書いたり、2段落構成で書く練習をした結果が表れたといえる。今後も結論・理由・意見・事実などを意識して書く練習に取り組ませていきたい。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	71.3	74.5
	量と測定	75.3	73.5
	図形	79.3	79.2
	数量関係	47.1	59.9
観点別	数学的な考え方	58.2	62.5
	数量や図形についての技能	75.1	77.1
	数量や図形についての知識・理解	65.1	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均を3ポイントほど下回っている。3けた÷2けた,小数第1位－小数第3位,命数法で書かれた数を記数法で表すことなどの問題は,90%を上回り理解している。3けた×2けたのかけ算が正答率56%,倍とわり算の文章問題を表した図の理解は正答率が55%といずれも市の平均を10%以上下回っていた。	計算問題は今までの通り宿題や家庭での宿題など復習させていきたい。定規を使って位取りをそろえたり,数字を丁寧に書いたりすることでうっかりミスを防ぐことができることを伝え丁寧に取り組むことの大切さを引き続き指導していく。文章問題では,大事な言葉や求めることに線を引いたり,分かったことを図や絵で表したりしながら問題を解く練習を繰り返し行い自分の力で粘り強く取り組むことができるようにする。
量と測定	平均正答率は,市の平均を2%ほど上回っていた。特に分度器の中に示された角度の読みとりは正答率95%,長方形の面積を求める問題も正答率90%,身近にあるものの面積を推察したり,複合図形の面積を求める問題も市の平均正答率を上回っていた。角の性質を理解し2直線が交わってできる角の大きさを計算で求めたり,角の大きさの検討を付けたりする問題は市の平均正答	分度器の中の角度などは読み取ることができるので,今後は2直線が交わってできる角の大きさや,三角定規の角の組み合わせでできる角度を計算で求めたりする問題を繰り返し学習する機会を多く設け理解の定着に努める。
図形	平均正答率は市の平均正答率とほぼ同じ結果だった。円の直径の理解や球の半径から球が3つ並んだ時の長さを求める問題などは93%,76%といずれも市の平均を大きく上回っていた。しかし,二等辺三角形の作図では,69%と市の平均を10%下回っていた。	分度器やコンパスの基本的な使い方を復習し角の大きさや辺の長さなど分かっている部分に応じて使用する道具を適切に選んで正確に作図できるように指導していきたい。
数量関係	平均正答率は市の平均から13%余り下回っていた。二次元表を読み取り縦と横の分類項目をみて対象のますがどのような意味を持っているかや二次元表の理解は市の正答率とほぼ同じにもかかわらず,二次元表を利用し解く問題では19%とほとんど理解できていない結果となった。また,折れ線グラフを読むことはできるがその傾きから変わり方を読み取る問題も15%と市の平均を下	二次元表の読み取りはほぼ理解しているようだが,この表を利用して解けるよう応用問題に取り組ませていきたい。また,折れ線グラフについては傾きの表す意味をもう一度復習し繰り返し問題に取り組ませ理解の定着をさせていきたい。